

震災により被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。 復興のために私たちができることがあればご協力させていただきます。

東北関東大震災（3月11日2時46分）は500キロの範囲に及び、避難場所が2,300ヶ所に点在、未だ支援物資がなかなか行き渡らない不公平が生じている現実があります。

被災されて低体温症で命を失った人も少なくないと聞きます。これでは救える命をも救えない、このように震災連鎖で生き延びた人たちをも苦しめている現状を聞くにつけ、支援の速度が遅れているもどかしさを感じざるを得ません。役場、公共施設などが震災で機能を失っていることにも一因があります。これからのことを考えると被災された方の心のうちは計り知れないものがあります。

地域だけでは対応しきれない、前例にならうのではなく、法律に縛られるのではなく従来にない発想を取り入れ、国との連携プレーで一刻も早く生活の立て直し、安定を図ることを望むところであります。

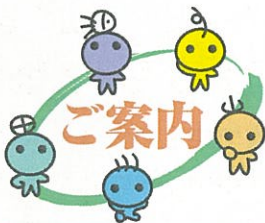
大震災から9日目に明るいニュースが舞い込んできました。石巻で祖母、お孫さんが救助されたその姿は、奇跡としか言いようのないそれにしても心温まる情景でした。疲労も限界に来ているギリギリの体力で頑張ったお二人の生命力と望みを捨てず捜索してくれた警察の方々に拍手をおくりたいと思います。

被災地には続々とボランティアスタッフが現地入りし、支援活動の輪が広がってきています。ある方から『被災現場に行けない私に何かできる事が無いでしょうか？』と質問を受ました。…長丁場になると思う、必ずしも行くことだけが救済ではない、行かなくても救済はできます。まず足元から考えてみませんか？救済という形にとらわれず今できること、例としてあげるならば、節電をすること、車で外出を控えることで燃料を少しでも多く被災地へ送ることができるし、節約した分を募金に回すこともできると思います。

今回の災害は被災者のみならず私たち自身への教訓でもあり、この直面している未曾有の危機をどう乗り越えるか今こそ私たちの行動が試されております。

平成23年3月24日記

代表理事 渡邊 彰子



平成23年度通常総会のご案内

特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて 通常総会

日 時	平成23年6月26日(日)
場 所	岩手労働福祉会館5階 いしわり (岩手県盛岡市大沢川原二丁目2-32 TEL 019-651-7961)
受付開始	13:00
基調講演	13:30~15:20 テーマ…(仮称)遺伝子組み換えについて (講師検討中)
通常総会	15:30~17:00
懇 親 会	17:30~18:50 (会費3,000円)



NPO法人岩手子ども環境研究所

標高700m、12世帯の山里の集落にある廃校を再利用したエコスクール。

2001年に葛巻町の協力を得て岩手子ども環境研究所が開設してから今年でちょうど10周年を迎えます。

「もったいない、ありがたい、おかげさま」を合言葉に、パーマカルチャーの手法を取り入れながら、コンポストトイレ、空缶風呂、手作りのバイオガス装置、畑、森のキッチン、パン窯をはじめ、自然エネルギーや足元にある資源を活かした循環型の生活が楽しみながら子どもも大人も体験できる場をつくり出してきました。

地元の子どもの対象の冒険遊び塾「子どもオーブナー」の開催(毎月)を初め、夏期、春期の長期自然エネルギー体験スクール(3泊~19泊までコースあり)など、毎年、様々な体験プログラムを展開しています。

昨年大人気を博したのが、親子対象の「おんちゃんと、えほんの森できょうもあそぼう」。森の中でえほんを読んだり、探検したり、えほんに出てくるお菓子をつくりたりして遊ぶシリーズは、今年も4月から毎月開催します。

白樺の樹液珈琲が人気の「カフェ森風」(今年度は4月23日より土日営業)は、ボランティアが多数関わって作られた環境共生建築です。そして今年からは、ここを北欧風の「えほんカフェ」に様変わりさせる計画を今立てています。

昨年ついに完成した宿泊研修施設「エコキャビン」は、電力をすべて自給、排水浄化設備も備えたエコハウスですので、えほんの森で遊んだらお泊まりというご家族で楽しめるコースもこれからは可能になります。

そして、今春からはいよいよ隣接する北越紀州製紙さんの森を利用した、体験フィールドづくりが始まりますので、保育・子育て支援者、自然体験に関わる指導者の宿泊型研修も企画しています。

このように、様々なかたちで北欧のライフスタイルと地場の暮らしにまなびながら過去と未来をつなぐ新たな道を模索しています。

※パーマカルチャーとは…人間にとっての恒久的持続可能な環境をつくり出すためのデザイン体系のこと。





「馬搬」盛治さんと盛

2009年、遠野の自然環境について、保全&再生活動を積極的に行う市民団体が生まれました。

その名は「遠野エコネット」(代表 千葉 和さん)。その活動の1つであるワークショップ「山仕事体験会」に参加させて頂きました。

体験のひとつ「地駄曳き」は、山の自然を損なわず木材を搬出できることから、近年注目が集まっています。

重機を入れると一度にたくさんの木材を搬出できますが、そのための道路をどんどん作らなくてはなりません。

山で伐り倒した木材を、馬の力で道路まで引いていく「地駄曳き」の技術を伝承するために発足した「遠野馬搬振興会」会長 菊池盛治さんと愛馬「盛」は名コンビ。



「馬搬」集合写真

いとも簡単にしかもリズムカルに、伐り倒した木材を運び出すおふたり?の姿。

長年連れ添った中で培った菊池盛治さんと盛の固い絆を、盛のイキイキとした表情で木を引く姿からうかがい知ることができました。

「伐り倒した木材を引っばってみて!」の声に呼応し引っばってみました。一本の木なのにびくともしません。

さらに男性7人が加わって8人がかりで引っばって、初めてわずかに動く程度。馬の力にあらためて脱帽です。



「人搬」ひっばる

「馬はいつも通る道でも、危険を察知すれば、別の道に導いてくれる。」という盛治さんの言葉から、心と心が通い合う生きものや自然に耳を傾ける行動が、自然とともに生きていく環境では、機械以上に効率の良いものだと思います。

坂下洋子

会員活動紹介 …その1

やえはた自然通信 Vol.27より

やえはた自然農園

藤根正悦・香里

〒028-3142

花巻市石鳥谷町八重畑9-20-5

Tel&Fax:0198-46-9606

e-mail:info@yaehata.com

HP: http://yaehata.com/



環境パートナーシップいわての会員である藤根正悦さんは、かわいい奥様と二人三脚で、自分らしさを大切に素敵な活動をなさっています。

人と人のつながり、そして人と自然・大地とのつながり…そのようなものを大事になさっている事がよくわかります。

今回は、藤根さんご夫婦が発行している通信「やえはた自然通信」の中からいくつか紹介してみることに致しましょう。

楽しいことがたくさんあった2010年。春から秋にかけて、いろんな方々が自然農体験や「みんなの森」プロジェクトや「風人の祭」に参加してくださって、とっても賑やかでバタバタな日々でした。

そしてイベントに参加したり、農園に遊びに来てくださった、たくさんのおみなさま…う～ん、書ききれません…ほんとうにありがとうございました♪ (香里)

やえはた自然農園



■田んぼのお米さん

今年はやるぞーと意気込んで除草機をかけ、こりゃあ今年はいい感じじゃないかいと思った田んぼさん。やがて夏になってもなんだか稲は小さいまま。秋が来ても稲は小さいまま、みんなに応援してもらい無事に刈り終えることができましたが、自分ちで食べる分と予約分で丁度ぎりぎりでした。

無肥料でお米を作りたい、農を始めた10年前からそう思い、無肥料栽培の本を読み、こうすればいいのかと形をまね、有機栽培の本に堆肥が大事と書いてあっても、それじゃないんだおれのやりたい事はと勝手に決めつけていました。

そうか、やっぱ急がば回れ、何事も基本(土づくり)があってこそだ。分からんちんのオラに、自然がこれ



やりたい事をやろうと臨んだ2010年。お陰さまで山小屋プロジェクトをはじめいろんな事が出来ました。とっても楽しかったです。みなさんありがとう♪

今年の一年の計、ベースは…すなお心に浮かんだ事、やってみたい事、ワクワクする事を基本で行こうと思います。

心に聴いて笑顔で動く時、その笑顔はつながり広がり、お互いの元へも帰ってきます。こころのわがつながるお付き合いを本年もどうぞよろしくお願いします♪

(正悦)



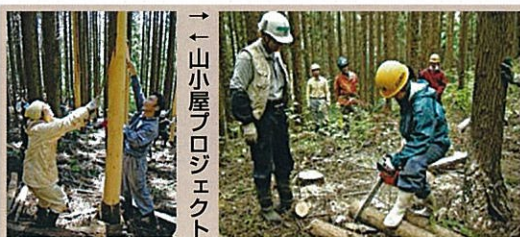
→ 田んぼのお米さん ←



← 畑のお野菜さん



→ 猫のロック



← 山小屋プロジェクト



← 風人の祭り



でもかと教えてくれたようです。プラソイラーをかけて、田んぼの乾かし方を工夫したり、麦を蒔いてみたり、出来る事からいろいろ工夫してみようと思います。

一方の自然農の田んぼでは、今年も稲さんがすくすくと育ってくれました。命が巡る自然な田んぼ、みんなの田んぼ。今年も田植や稲刈りパーティーを予定しています。どなたでもいつでも参加歓迎～。どうぞお楽しみに!

■畑のお野菜さん

昨年は秋野菜の種まきを十分出来ず、早々にお野菜のお届けシーズンを終了し、皆様にご迷惑をおかけしました。

自然農をはじめて十年、お陰さまで元気に育ってくれるお野菜さんが増えてきました。何にも肥料をやっていないのに元気に育つ人参さんなんて、超可愛い～、そしてめっちゃ甘っ。

目指せ、ほっとして元気になる美味しい畑! 自然農体験・野良仕事応援は今年も随時受付です♪

■昨年そして今年・光へ

大事な家族だった猫のロックが旅立ちました。そして交通事故で寝たきりだった母が夏の暑い日に天へ還りました。

毎朝目が覚めて、耳が聞こえ、声が出て、手足も動く。みんなと出会い、こうして同じ空の下にいる。嬉しい事なんだな、有り難い事なんだなと思います。

背を伸ばし、前を向き、微笑んで行こうじゃないか。そんな気持ちが湧きあがってきました。

山へ～♪

2010年、ついに山小屋プロジェクトが始動しました。今年が山小屋プロジェクト展開の年です。

気になる、見てみたい、やってみたいな～と思った時は、いつでも大歓迎です。どうぞ、まずは、お出かけください♪

■風人の祭り

風人の祭り2010花巻を、宮澤賢治童話村の野外広場で行いました。

「風人(かじびとう)=自然と共に生きる人=思いやりを持って生きる人」の「わ」がどんどん繋がっていきます。今年はどうな風人の祭りになるか、今から楽しみです。

■命の行進

平和と命の大切さを訴え、東京から青森まで行進中の「命の行進」御一行様が農園に一泊してくれました。

色々な方たちが宗教(宗派)や主義主張に拘らずに、命を大切に思う心で一つに行動されるというのは、すごい事だと思いました。

■そらさん

皆が幸せになるようにとの思いで「そらの会」を開きながら全国を歩いているヒーラーのそらさんが農園を訪ねてくれました。

そらさんと話して心がすっとゆるみました。今年も全国を巡る予定ということなので、「そらの会」を農園で開けたらなーって思っています。

■改装

ここ数年、毎年羽アリが出たりして何とかしなければと思っていたお家の改装に着手しました。部分的ですが床や壁は無垢の板材にし、薪ボイラーや土管を使った排水を採用しました。風呂桶は、知人宅でお風呂を頂いて以来すっかりファンになった、タイマグラの南部桶正さんに依頼しました。

■仲間たち

2010年、たくさんの仲間が農園に来てくれました。困ったな～という時には、不思議と誰かが現れてくれました。

一緒に野良仕事をし、語りあい、笑い、時には涙し、励まし合ったどれも全部、大事な宝物です(みんなの笑顔が浮かぶよ～)。

まとめ

自然に耳を傾けて自然に寄り添って歩みを進めている…そんな空気を感じるお便り満載。自然と仲間が集まっていくのがわかる気がします。もちろん自然と向き合うことは大変なことも多々あると思いますが、今回の取材を通じて、これからもその空間を大切にしていきたいと願う応援隊の一人になりました。



4号線

八重田

→命の行進

→そらさん

←仲間たち





会員活動紹介 …その2 今年「国際森林年」 みどりを守り育てる岩手県民会議 〈盛岡市〉



1993年（平成5年）に、『森林資源の維持、農山村および林業・林産業の活性化、みどり豊かな森林「いわての山河」の再生に向けて、すべての団体、個人の英知と行動を結集し、みどり豊かな国土を21世紀に引き継ごう』と結成しました。

私たちは、「緑のフェスティバル」を盛岡市・中津川河川敷で行い、一般市民に環境問題や森林の問題や課題などをアピールしています。

一方では、「森林・環境フォーラム」を県内各地で開催し、地域の課題と林業問題等を議論し、行政機関や関係団体に提言をしたり、問題提起をしています。

「森林・環境フォーラム」は今年の9月、「緑のフェスティバル」は来年の春に実施することで準備を進めています。

また、「自然世塾」という、森林・林業や環境問題に関心を持ってもらえればと、入門的な講座を年7回（春から秋まで）行っています。昨年も植樹、下刈りの林業体験、里山、森林（ヤマ）を訪れ自然観察や学童との交流をしたりと多くの行事を楽しく行いました。

15年目を迎えた今年は、『“国際森林年”岩手の里山や森を回り、環境・緑と人々の暮らし（関わり）にふれてみませんか』ということで現在「塾生」を募集しています。多くの方々の参加を待っています。

今後とも「みどり豊かな国土」を未来の子ども達に引き継ぐために、さまざまな活動に取り組んでいきます。

自然世塾



閉校式木工作品の展示



閉校式

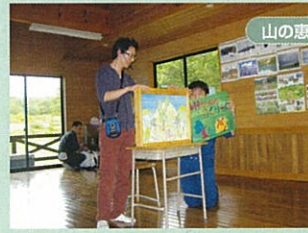


閉校式

みどり学園交流



いわなつかみ



山の恵み紙芝居



中津川フェスティバル



みどりのフェスティバル



ショウジョウバカマ



姥杉



焼け走り調査



西和賀水芭蕉群落



エコロジカル生活を学ぶ



宮古市区界のミズナラ植樹



松尾村 100年の カラマツ勉強会





政策提言セミナーの報告



基礎編 第1回目 2011年1月27日(木)

基礎講座 「政策提言のいろは」

地域社会デザイン・ラボ代表 遠藤 智栄 氏

基礎講座では「政策提言の全体像を知る」、「何からはじめるか、検討をつける」ということを主なねらいとし開催。ポイントとしては、政策提言はすぐに出来るものではなく、普段から行政が発信している情報をフォローしていくことが大事である。そうすることで、政策提言につながる感度も高まってくる。市民に開かれている市民参加の制度（パブリックコメント、審議会等、公聴会、市民説明会、市民政策提案、協働）を活用すると良い。

また、講義の途中には2つの演習を通じて、参加者個人が考える「地域の問題」や「望ましい未来像」、「課題の全体像をイメージするつながりマップ」を整理し、参加者同士での意見交換会も行われた。



平成22年 NGO/NPO・企業環境政策フォーラム

優秀提言紹介

社団法人 日本建築家協会 伊藤 正利 氏

日本建築家協会（JIA）は建築設計者、実務者の団体となっており、その中に環境行動ラボがある。

そこでは、特に環境建築に的を絞ってセミナーを開催する普及啓発活動、研究活動などを行っており、本セミナーでは、環境行動ラボによる①環境省政策提言内容、②環境省エコハウスモデル事業、③現在進行中の実施可能性調査（フィージビリティ調査）についてお話いただく。

また、環境省エコハウスモデル事業では、全国20の都市でエコハウスを建設し、日本の亜寒帯から亜熱帯までの地域の知見から、アジア地域への指導、世界レベルの温暖化対策へのリーダーシップを発揮することを目指しているとのこと。



実践編 第2回目 2011年2月3日(木)

行政内部で政策はどのような視点やプロセスで作られているのかということを学ぶ講義と「岩手県住宅マスタープラン」をケーススタディとして、地域課題の解決策を政策提言にまで持っていく考え方をワークショップ形式で体験する勉強会を開催。

ワークショップの報告

Aグループの提言内容は「多世帯住宅への優遇政策」をテーマに、住宅のハード面の整備よりも、社会システムを良くしていくべきではないかという視点を中心に議論が行われた。

Bグループからは、「エコハウスの基準を作り、住み手が安心して住宅の建築やリフォームが出来る仕組みづくり」が提案された。

現在は住み手中心の情報がないことを出発点として、大学、県民生活センター、メーカー、工務店、専門家、行政、NPO、金融機関等がネットワーク化していくことで、安心出来る住宅選びなどにつながっていくのではないかと視点を議論が進んだ。

参加者アンケートより



▶提言と要望の違いがよくわかった ▶アイデアを出し→制度・仕組みにまとめ→政策提言につなげるという一連の流れを体験することができ、良い時間を過ごせた ▶県との協働作業で良かった ▶各々の主張の根底に価値観の違いがあり、合意形成に持ち込むことの難しさを感じて面白かった ▶政策提言を具体的に作れるまでに至れば良かった ▶土日の開催にして、地球温暖化防止活動推進員さんの参加が欲しかった





第10回リンゴの花まつり

期 日

平成23年 5月15日 (日)
10:00~15:00

場 所

うわのリンゴ園
岩手郡滝沢村滝沢大石渡21-2
TEL&FAX 688-3535



リンゴ園コンサート

特別ゲスト

安代雪絵さん

荒屋正勝社中の進行のもとにたのしい時間を共有しましょう。おいしい出店もおたのしみ。

※マイはし、マイどんぶりをお忘れなく…!

ごみゼロプロジェクト例会&「地球1個分の暮らし?エコロジカル・フットプリント」夜学

会 費 無料
参加資格 ありません。どなたでもどうぞ。
申 込 E-mail: eco@isop.ne.jp まで。
参加ご希望の方はぜひご連絡願います。

- ファシリテータ
実行委員会・環境パートナーシップいわて会員
佐々木明宏、佐藤清忠
- プログラム(話題案)
 - ・地球1個分の暮らしをデザインしよう
「エコデザイン」サステナブルな社会に向けたシナリオ
 - ・2012年リオ・環境サミットに向けて

「Part.61」4月の夜学…6年目へ

日 時 2011年4月21日(木)
午後 7時00分から午後8時55分
会 場 アイーナ 6階 団体活動室

「Part.62」5月の夜学

日 時 2011年5月19日(木)
午後 7時00分から午後8時55分
会 場 アイーナ 6階 団体活動室



~わたしの一言~

オレ様の祖国はアメリカ。日本に連れてこられて早幾年月。居心地満点だ。

何でも食べられるから、子どもや孫もどんどん大きくなる。ルックスは人間には好かれよう。しかし、食糧難を救ってきたという自負はある。

ある日のこと、人間が数名やってきて、オレたちの縄張りをかき回し、大切なおたまじゃくしを捕まえて、「すぐ殺さなくちゃ。彼らには何の罪も無いんだけどねー」とのたまう。おいおい、それは無いだろうよ。身勝手な輩だ。

ねえ、ブラックバス釣りのそこのダンナ、どう思う?ウシガエルのひと言(代)

加藤 直子



編集
後記

気温も緩み、春の臭いが少しずつ感じられるようになってきました。今回のニューズレターは、2回分の内容を凝縮してお届けしています。会員の皆さんがいろいろな場所で一生懸命に取り組んでいる活動をたくさん紹介させていただきました。皆さんの今後の活動の元気に繋がれることを祈っております。

発行：NPO法人 環境パートナーシップいわて

事務局〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6 TEL 019-681-1904 (直通) FAX 019-681-1906
e-mail kanpai@utopia.ocn.ne.jp

環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 岩手県民情報交流センター・アイーナ 5F
TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753